

松伏町の観光農園 舛田さんと花井さん

人気のイチゴ品種 年ごとに導入工夫



①イチゴハウスで舛田さん(左)と花井さん、②あまりんなど約10品種のイチゴを栽培

【埼玉】松伏町にある(株)あぐりスタジアム(舛田博文代表)の舛田晃さん(33)と花井宏行さん(33)は、舛田代表らと共に約40坪のハウス6棟で観光農園「いちごスタジアム」を運営している。ほかにもブロッコリー、トウモロコシなどを約1畝栽培。二人は高校時代の同級生で就農8年目だ。

観光農園では食べ比べができるよう、あまりん、紅ほっぺ、おいこベリーなど約10品種のイチゴを栽培。味を落とさず収量を上げる方法を日々試行錯誤し、品種に合わせた栽培に力を入れる。圃場管理システムを使い、データを収集・分析

し、効率の良いハウス管理に努めている。どうすればお客に喜んでもらえるのかを常に意識している二人。「楽しみにしてくれるお客がいるので、人気の品種を毎年取り入れるよう工夫している」と話す。今年は新たにベリーポップすとスターナイトを栽培。お客との会話を大事にし、お客が求めるイチゴを常に追求している。

さらに、舛田さんは肥料や農薬を使わないで作った野菜を「ますだのやさい」として販売。県独自の認証制度であるS-GAPも取得した。「取得をきっかけに農園を整理する大切さを改めて感じた」という舛田さん。

その経験を活かして、あぐりスタジアムでも農機具の配置を工夫するなど、効率的で作業しやすい農園づくりに取り組んでいる。

舛田さんは「これから遊休農地になりそうな農地を引き受けたり、皆が協力し合いながら自分たちにはできない農園を作っていききたい」と話し、「ゆくゆくは自分たち世代よりも、もっと若い人へ農業の魅力を伝えていきたい」と未来を語った。